

## 都市域の緑地環境の保全に関する研究 (IV)

## —保存樹周辺住民の意識と評価—

九州大学農学部 薛 孝夫  
西日本短大造園学科 若林 春美・吉永浩一郎・新開 友則

## 1. はじめに

福岡市において、保存樹について実態調査や管理者(所有者)の意識調査などを実施する中で、保存樹の落葉落枝などが隣接する住民の迷惑になるケースがあること、近隣からの苦情で強度の枝落としをしたために、樹容が美観風致上特にすぐれなくなった保存樹があること、などが明らかになってきた。<sup>1) 2)</sup>

保存樹に対して住民が感じている迷惑感や快適感を確かめるために、個人の住居敷地内にある保存樹の所有者と、その周辺住民の意識について、2本の保存樹を対象に調査したので、その結果を報告する。

## 2. 調査方法

調査の対象とした保存樹は、福岡市中央区地行にあるクロマツと同市城南区別府にあるクロガネモチである。調査は、保存樹の現況調査、所有者と周辺住民へのアンケート調査と聞き取り調査からなる。

所有者へのアンケート調査は、前報<sup>3)</sup>と同様な項目で、所有する保存樹についての意識や管理内容、周辺住民の協力や苦情などについて質問するものである。周辺住民へのアンケート調査は、①当該保存樹との関

わり、②保存樹に対する評価、③周辺環境に対する評価などについて、それぞれ数問づつ選択式、記述式の質問をするものである。

周辺住民のサンプルは、保存樹から半径200m程度を目安に無作為に選んだ住居100戸とし、調査票を自宅に配布して料金不要で返送を依頼した。回収数はクロマツ52、クロガネモチ32であった。二つの事例調査の回答者の分布範囲を保存樹からの距離で揃えるために、保存樹から半径195m以内の居住者を集計の対象とし、クロマツではこれに該当する46通を用いた。

## 3. 調査木および周辺の概況

クロマツ(指定番号168)は、地上1.5mの幹周1.5m、樹高約12m、枝張り約7~8mで、住宅の庭園内の幅員4.5mの道路から10m程度離れた所にあるが、一戸建ての多い住宅地で、駐車場に隣接するため比較的良好目立つ(図-1)。保存樹を中心に半径200m以内の建築物の総数は92で、一戸建て住宅が78%、アパートおよびマンションが15%、他に病院2、商店、会社、町工場、寺が各1である。

クロガネモチ(指定番号66)は、幹周2.2m、樹高約16m、枝張り約12~15mで、幅員約4mの道路から1.2



図-1 クロマツ保存樹(指定番号168)



図-2 クロガネモチ保存樹(指定番号66)

m程高い私邸内のフェンスに接する所にある(図-2)。保存樹から半径200m以内の建築物の総数は127と前者よりやや高密度であり、一戸建て住宅が68%、アパートおよびマンションが25%と、集合住宅の割合が前者よりやや多い。他に商店8、会社4、町工場、保育園、公民館が各1である。

回答者の年齢構成や職業構成には目立った違いがないが、前者の方が後者より回収率が高く、回収期間も短かった。

#### 4. クロマツについての調査結果

##### (1) 所有者の意識

この所有者は保存樹についての認識が高く、その存在を誇りにしているように思われる。保存樹は防風や防火に役立っていると考えており、行政の指導があればこれまでどおりに保存樹を管理していくことができると言っている。また、周辺の住民からの苦情は一切なく、むしろ喜ばれているようだ認識している。

管理費に年間4万円強を使い、補助金で不足する分は個人で補っているが、補助金の増額などを要望しているわけではない。行政に対する要望として、①松喰虫対策、②個人庭園内の保存樹の存続や拡張を目指した施策、を挙げている。そして、保存樹の管理について困っていることや不満に思っていることは、今のところ特に無いと答えている。

##### (2) 周辺住民と当該保存樹との関わり

木の存在そのものを知っているのは回答数の65%で、その50%がそれが保存樹に指定されていることを知っていた。保存樹から60m以内の人は全員がこの木を知っており、この範囲内ではそれが保存樹であることを知っているのはその60%である(図-3)。

この木との関わりについて、いつも窓から見ているという人は65m以内に限られ、その範囲の回答者の36%であった。週に1回以上そばを通るといふ人は110m以内で、その38%だった。また、この木を知っていると答えた人の53%は、見たことがあるという程度で自分の生活とはほとんど関係が無いと答えている。

##### (3) 周辺住民の保存樹についての評価

この木を知っていると答えた全数30人に、印象や評価をたずねた。この木の印象について最も多かったのは〈年代を感じる〉(60%)で、50%以上が認めたものはこの他に〈力強さ〉〈美しさ〉であり、30%以上が認めたものは、これらに加えて〈雄大さ〉〈畏敬の念〉だった(図-5)。

この木があって良かったと思ったことは、〈景色を良くする〉(43%)が最も多く、15%以上が挙げたものは、この他に〈野鳥が来る〉〈目印になる〉〈空気がきれいになる〉であった(図-6)。また、この木のため

に困ったこととしては、保存樹から30m以内の所に住む回答者から〈落葉落枝〉が2件挙げられただけであった(図-7)。

総合的な評価として、67%がこの木の保存は必要であるために困ることはないと答え、迷惑することもあるが保存は必要だというのを合すると77%となり、この木は不要だという答えは全く無かった(図-8)。

#### 5. クログネモチについての調査結果

##### (1) 所有者の意識

この所有者はこれまで、神木だからという理由でこの保存樹の枝落としなどを一切やらなかった。落葉や実で道路が汚れるなど近所からの苦情が多く、保存樹があって良かったと思うことは全く無い。管理は何もやっていないので、管理費を使うことも無い。行政に対する要望も特に無いが、あまりに苦情が多いのでこれからは枝落としなども始めようと考えている。

##### (2) 周辺住民と当該保存樹との関わり

木の存在そのものを知っているのは全数の94%で、その97%がそれが保存樹に指定されていることを知っていた。この木を知らなかったのは転居してきて日の浅い主婦らで、回答者が含まれる半径195mの範囲のほとんどの人がこの木を知っていることになる(図-4)。この木をいつも窓から見ているという人は半径70mの範囲におり、その範囲の回答者の80%に達した。週に1回以上そばを通るといふ人は、調査範囲内では距離に関係なく、回答者の69%もいた。また、この木と自分の生活とはほとんど関係が無いという人は、この木を知っている人の17%であった。

##### (3) 周辺住民の保存樹についての評価

この木の印象として最も多かったのは〈年代〉と〈力強さ〉(各83%)で、50%以上が認めたものはこの他に、〈雄大さ〉〈安らぎ〉であり、30%以上が認めたものは、これらに加えて〈美しさ〉〈畏敬の念〉〈季節感〉だった。この木には、〈不気味だ〉〈邪魔だ〉などマイナスの評価も出た(図-5)。

この木があって良かったと思ったことは、〈野鳥が来る〉と〈木陰になる〉(各60%)が最も多く、〈空気がきれいになる〉(50%)がこれに次ぐ。他に15%を越えるものはなかった(図-6)。

この木のために困ったこととして〈落葉落枝〉を全体の37%が挙げ、これには60m以内の回答者8人の全員が、また遠い所では140m離れた人まで含まれている。この他に、〈日陰になる〉(13%)、〈鳥が集る〉〈大枝が落ちる〉(各10%)などがあり、回答数あたりの件数で80%が困った例を挙げている(図-7)。また、自分は離れているので直接は困らないが近所の人は大変だろうという旨の注記が3件あった。

総合的な評価として、この木の保存は必要でそのために困ることはないと答えたのは47%で、迷惑することもあるが保存は必要だというのを合すると87%となった。また、この木は無い方が良いという答えが10%あった(図-8)。

6. 考察

事例として調査した2本の保存樹で、周辺住民の反応の違いは意外に大きかった。クロガネモチの場合、保存樹があって良かったと思われることも、逆に保存樹のために困ったと思われることもクロマツに比べて多い(表-1~表-4)。また保存樹の印象についての間で、クロガネモチについて挙げられた印象の件数はクロマツについて挙げられた件数のおよそ1.7倍にあたる。これらから、クロガネモチの事例ではこの保存樹に対する周辺住民の関心や影響がクロマツの場合と比べて高いことを指摘できる。被験者が共通でないので想像の域をでないが、この違いは隣接道路の使用頻度の差や地域の気質の差によるのかも知れないし、樹種によるインパクトの差が表われているのかも知れない。

表-1、表-2は、それぞれの保存樹の存在を知っていると答えた人を木からの距離順で5人ずつに区切って、保存樹があって良かったことを挙げた件数を示し、表-3、表-4は同様に、保存樹のために困ったことを

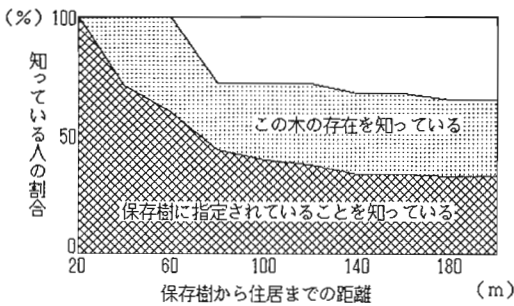


図-3 保存樹からの距離と関心(クロマツ)

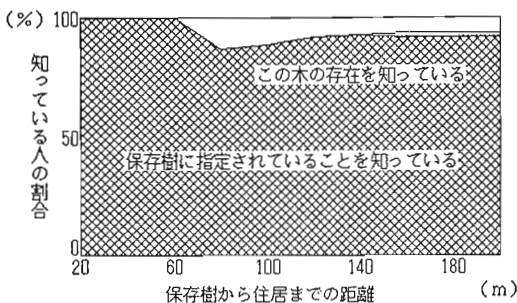


図-4 保存樹からの距離と関心(クロガネモチ)

挙げた件数を示している。保存樹があって良かったという評価の傾向には、今回の調査範囲では保存樹からの距離との大きな関連は見られなかったが、困ったことがあったという指摘は、全体で見ると保存樹に近い所ほど大きい。また、落葉に困っているという人は木からかなり離れた所まで及んでいる。自宅の庭だけでなく、道路が汚れることを指しているのであろう。

鳥が来ることと日陰をつくることはプラスにもマイナスにも評価される。これらは樹種によって程度の差が大きい項目であると思われるので、さらに調査事例を増やしていきたい。

7. おわりに

調査や取りまとめに際し、助言や協力をいただいた福岡市役所緑地課の真隅潔係長および水落啓介、上田裕貴の両氏、ならびに取材に応じて下さった保存樹管理者各位に謝意を表します。

なおこの調査の一部は、文部省科学研究費補助(一般C03660159)により実施したものである。

引用文献

- 1) 薛 孝夫ほか：日林九支研論, 45, 23~24, 1992
- 2) 薛 孝夫ほか：日林九支研論, 46, 29~30, 1993

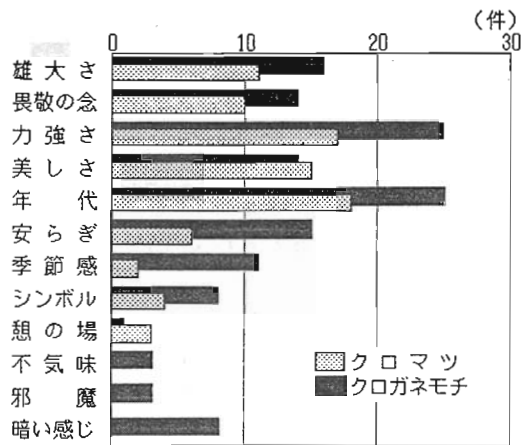


図-5 保存樹の印象

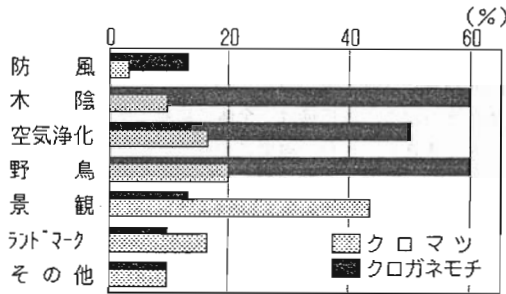


図-6 保存樹があって良かったこと

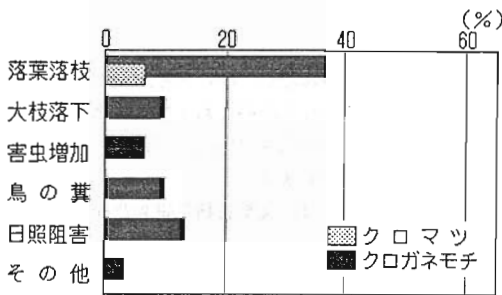


図-7 保存樹のために困ったこと

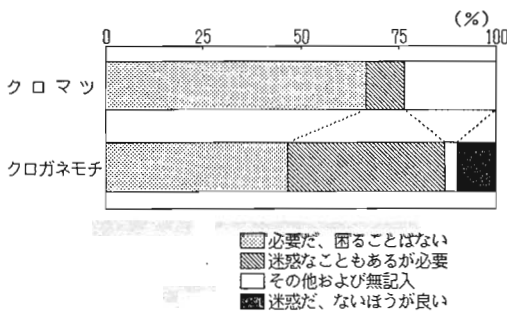


図-8 保存樹に対する総合評価

表-1 距離別、クロマツがあって良かったことの件数

木からの距離	35	60	95	110	120	190m	計
防風	-	-	1	-	-	-	1
木陰	1	1	-	1	-	-	3
空気浄化	-	2	1	1	-	1	5
ランドマーク	1	1	-	2	1	1	5
野鳥	2	1	1	1	-	1	6
景観	2	2	3	3	2	1	13
計	6	7	6	8	3	3	33

表-2 距離別、クロガネモチがあって良かったことの件数

木からの距離	50	75	110	135	150	190m	計
防風	2	-	-	1	1	-	4
木陰	2	1	3	4	4	4	18
空気浄化	2	1	2	3	4	3	15
ランドマーク	2	-	-	-	1	-	3
野鳥	3	2	3	4	4	2	18
景観	1	-	2	1	-	-	4
計	12	4	10	13	14	9	62

表-3 距離別、クロマツのために困ったことの件数

木からの距離	35	60	95	110	120	190m	計
落葉落枝	2	-	-	-	-	-	2
大枝落下	-	-	-	-	-	-	-
害虫増加	-	-	-	-	-	-	-
鳥の糞	-	-	-	-	-	-	-
日照阻害	-	-	-	-	-	-	-
計	2	-	-	-	-	-	2

表-4 距離別、クロガネモチのために困ったことの件数

木からの距離	50	75	110	135	150	190m	計
落葉落枝	5	3	1	1	1	-	11
大枝落下	2	1	-	-	-	-	3
害虫増加	1	-	-	1	-	-	2
鳥の糞	2	1	-	-	-	-	3
日照阻害	2	2	-	-	-	-	4
計	12	7	1	2	1	-	23